

かがやく

たいよう

【 全国学力テスト 】

今年4月に全国の中学三年生と小学六年生に対して、学力テストが実施されました。(科目は小学校⇒国語A・B、算数A・B。 中学校⇒国語A・B、数学A・Bです。)

その結果分析が、文部科学省から8月29日に発表され、翌日の朝刊各紙に大きく取り上げられました。

このテストは昨年も実施されています。全国の平均正答率は、小中学校の調査8分野のすべてで昨年を下回りました。出題内容が昨年とは異なるため、単純な比較はできませんが、すべての分野で下回ったということは基礎学力の低下を心配しなければなりません。

本校六年生の平均正答率は全国平均、和歌山県平均を全教科とも上回っています。特に算数Aは本校平均がすべての都道府県平均を上回っています。かなりがんばっている水準と言えそうです。ご家庭での教育に対する考え方と取り組みが表れているように思います。

しかし、詳しく分析すると問題点も見えてきます。科目のAは基礎学力、Bは応用力を問われています。Bになると、どの都道府県もAを大きく下回ります。また、Aの中でも気になる箇所があります。例として保護者の皆様も次の問題を考えてみてください。これは六年生の算数Aの問題です。

《 問題 》

面積がおよそ150cm²であるものを次の4つから1つ選んでください。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 切手1枚の面積 | 2 年賀はがき1枚の面積 |
| 3 算数の教科書1冊の表紙の面積 | 4 教室1部屋のゆかの面積 |

この問題の全国の平均正答率は、17.7%、和歌山県、16.6%
三石小学校、22.5%です。つまり5～6人に1人しか正解できていません。
本校では、43%が3番、34%が4番と回答しています。

たて15cm、よこ10cmの長方形の面積は？**この問題はほとんどの六年生が正解するでしょう。しかし、その150cm²がどれくらいの大きさかということを想像することが難しいようです。

たとえばお料理で「コップに3分の1の水を加えて」と言われて、その3分の1がどれくらいかをすぐにイメージできるかどうか。つまり学習したことを実際の生活の中でどれだけ生かせるか、そのような力をつける指導が絶対に必要です。

9月1日の全校集会で、北京オリンピックの走り幅とび、走り高とびで金メダリストがとんだ距離や高さを実際に測定して、子どもたちに示しました。その長さや高さを見て、子どもたちはそのすごさを感じてくれたと思います。

今回の全国学力テストの結果、福井、富山、石川などの北陸地方と秋田県の成績が素晴らしいです。この要因は何か。研究してみます。

この全国学力テストの結果をさらに細かく分析して、今後、子どもたちの学習意欲を強く引き出せるような指導に全力を尽くします。

《 校長 米田 》